

フェアプレイ
インタビュー
【7人制ラグビー】
中村知春選手



プロフィール
生年月日：1988年4月25日
出身地：神奈川県
2018年
アジア競技大会
金メダル獲得!

ラグビーで感じたフェアプレイ

ほんの数秒前まで、お互い、闘志をむき出しに戦っていたのに、試合終了の笛が鳴った途端、両チームの選手が笑顔で握手をする。戦いが終われば相手も味方もなくなる。それがラグビーの『ノースサイド精神』です。

東京五輪で2度目の大舞台に立つことを目指す女子セブンズ（7人制ラグビー）日本代表の中村知春選手は、2016年のリオデジャネイロ大会への出場権が懸かったアジア予選のことをよく覚えています。

たまたまなかったはずですが、でも、カザフスタン、香港、タイと、日本に敗れたチームは負けて悔しいはずなのに、試合が終わった瞬間、私たちと握手をして、笑顔で祝福してくれました。

中村選手は、小学生のときからバスケットボールに熱中していましたが、ラグビーを始めたのは大学を卒業してからのことです。

ラグビーをやりたくなったの

体をぶつけ合うスポーツだから、絆が太くなり、相手を思いやる。

いろんなことに興味を持つと、自分の可能性も広がる。

他の選手よりラグビーを始めた年齢が遅かったのにオリンピック



になった中村選手は、「諦めなければ、誰にでもチャンスはあると思う」と言います。

「幼い頃から、オリンピックに出たいと、強く思っていたわけではありません。自分に合うスポーツを探していたら、ラグビーと出会い、楽しくなって熱中していたら、結果がついてきました。いろんなことに興味を持っていると可能性が広がると思います」

普段は1チーム15人でプレーするところを7人でおこなう7人制ラグビーは、グラウンドの広さはそのままで、時間も前後半7分ずつと短いので、ボールがよく動き、スピーディーで、とても楽しめる競技です。中村選手は東京五輪で日本チームが活躍することで、もっともラグビーに女子のプレーヤーが増えたらいいな、と願っています。



FAIRPLAY STORY
フェアプレイストーリー
「認め合うライバル同士のフェアプレイ」

男子体操
内村航平選手
オレグ・ベルニャエフ選手

2016年リオ五輪
体操男子個人総合
体操男子個人総合

金メダルをめぐって
内村とオレグ・ベルニャエフは
デッドヒートを繰り広げていた

ベルニャエフが
優勝かと思われたが

最後の演技を完璧に決めた
内村がわずかに0.099点差で
逆転勝利した

現在の順位
1 オレグ
2 内村 航
3 マックス

オレグ・ベルニャエフ選手
内村航平選手

逆転を許した
ベルニャエフだったが
試合後は内村と抱き合い、
お互いの演技を讃え合った

見事な着地
だったよ！
君は凄いな

オレグこそ
素晴らしい
演技だった！

ところが試合後の記者会見で
内村に意地悪な質問が…

内村選手は審判に
気に入られて
いるのでは？

そうは思いません。
どんな選手にも公平に
ジャッジしてもらって
いると思います

そのやり取りに割って入ったのが
ともに激闘を演じたベルニャエフだった

採点はフェアでした
今は無駄な質問だし
僕は彼と戦えて
幸せでした

たとえライバルであっても
内村へのリスペクトを忘れない
ベルニャエフの行動は

勝ち負けを超え、
フェアプレー精神を象徴する
素晴らしいエピソードだった

マンガ：しのと